

**受験を感じる 成長を信じる**

10月15日、大学入学共通テストの出願者数が53万5244人との発表があった。また、3年生は今年だけで4回目の模擬試験(プレテスト)を受験した。受験に近いという実感が日々増している。

ところで、3年生は先日の9月共通テスト模試の結果をどう受け止めただろうか。悔しい思いをした者も立ち止まってはいけない。模試の結果は、1ヶ月以上前の学力だからだ。模試後の自分の成長を信じよう。そして共通テストまでの残り11週でのさらなる成長を信じよう。

昨年と同じ内容だが、大切なことなので再度紹介する。9歳～11歳はゴールデンエイジとよばれる。神経系の発達により、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びる時期である。現役の受験生にも同様の時期がある。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間である。なぜこの時期に学力が伸びるのか。それは、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まるからだと考えられる。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化してくる。解決すべきことの見通しもよくなり、さらに学ぶ意欲が湧くのも理由の一つであろう。

受験は団体戦である。クラスに目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気が変わり、クラス全体の更なる学力向上が見込める。今こそゴールデン「タイム」である。個人で、集団で、大いに学力を伸ばそう。

文理選択 — 1年生 —

文理選択の期限が近づいている。『進路の手引き』や学年PTA資料を参考に、どこまで考えているだろうか。

例えば、「数学が苦手だから文系」といった選び方は避けよう。まだ2年以上あるからだ。どの分野から克服し、苦手分野をどこで補うのか。対応する時間は十分ある。また、例えば「将来は英語教師」と思った場合、文系を選ぶのが無難であろう。ただし、「グローバル企業で働きたい」場合となると話は変わってくる。メカニクやシステム開発に関わるならば理系であるし、経営に関わるならば文系である。(実際はもっと複雑だが)

文系に進むからといって、数学や理科の学習を疎かにして良いわけでもない。文系の学部でも入試に数学を課す大学があるし、「文理融合型」の学部学科が増えている現状もあるからだ。

ありきたりだが、「よく考えること」が大切である。

志望大学選択 — 2年生 —

ぜひとも今年度中に志望大学を絞り込んでほしい。

文理選択と同様に、例えば「数学が苦手だから、数学を使わない大学(配点が低い大学)を探す」のは良い選択とは言えない。また、例えば「英語が好きだから外国語学部」という選択も注意が必要だ。「文学部」や「国際関係学部」など、他にも英語を深く学ぶことのできる学部は存在するからだ。英語にどのように関わりたいのか、どのようなスキルを身に付けたいのか。調べ、考える時間は十分ある。

学習面における自分の得手不得手の自覚が、志望大学や学部・学科の選択に悪影響とならないよう、保護者や先生方、先輩方の声を聞こう。対策の時間は残されている。自分の利益となる選択をしよう。

入試情報 — 3年生 —

受験に関する最新情報を知ることが重要である。まずは、共通テストの英語について確認する。

R : L	大学名(一部です)
①100:100	九州・九州工業・広島・福岡教育
②160:40	山口・熊本・長崎・神戸
③150:50	名古屋・京都・大阪・佐賀
④上記以外	下関市立(140:60)・宮崎公立(120:80)
⑤学部による	鹿児島・宮崎・大分・山口県立

表の通り、大学によってReadingとListeningの比率が異なる。国公立大学では、①が全体の32%、②が35%を占めている。鹿児島大学も実際には医学部医学科以外は②に該当するが、私立を含め、自分が希望する大学の配点まで確認をしておく、現時点での英語学習の優先事項も見えてくるだろう。

入試動向にも関心を持とう。担任や進路の先生に、「前年度入試結果の反動」や、学内・地区内の「玉突き」といった現象について聞いてみることも大切である。「学部改組」による定員の変更や「括り枠」の増加にも注意を払おう。受験を様々な角度から捉え、実感することができれば、心にゆとりができたり、引き締まったりすることにつながる。

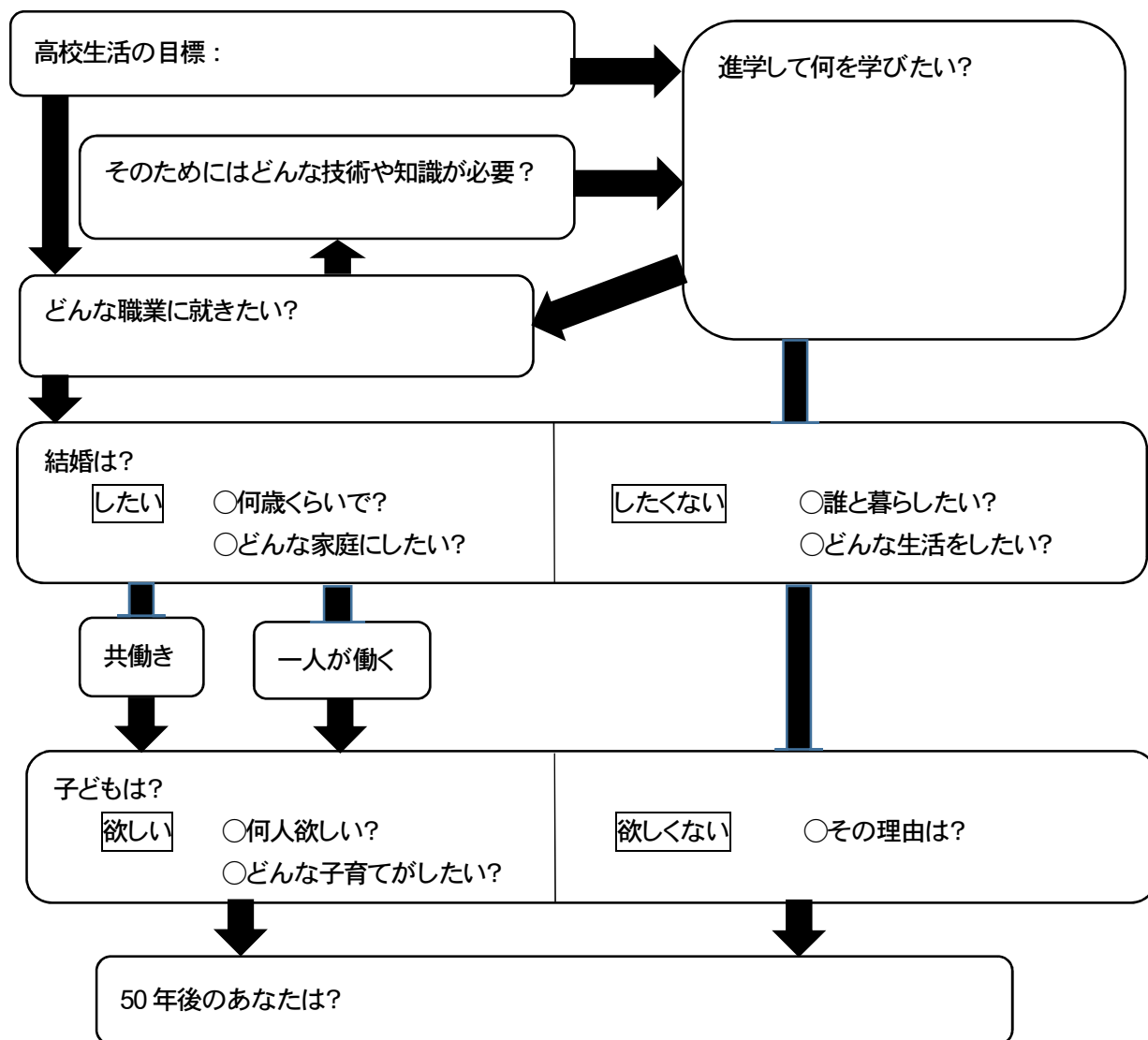
目の前の学習に全力を注ぎつつ、受験生としてのモチベーションを維持しよう。

共通テストまであと78日。頑張れ3年生!

家庭科の立場から『これから どう生きる？』

4月の自宅待機期間を利用して「人生すごろく」を作ってもらいました。文化祭や多目的スペースで全員分を展示しましたが、いかがでしたか？様々な人生がありましたね。また、授業で疑似夫婦になり、育児休業後の共働き夫婦の生活時間について考えてもらいましたが、働くことや結婚、子育てについてどう感じたでしょうか。

さて、進路志望調査の提出が11月4日（水）までとなっていますが、その次は文理選択です。大げさかもしれませんが、どちらを選択するかで人生も変わってきます。提出前に再度自分の今後について考えてみましょう。



実教出版 生活学Navi資料+成分表より

自分がなりたい職業、行きたい大学、学びたい学問、適性や成績などを考えて進路先を決めていきますが、ここに進学するかと共に、そこを「卒業した後の自分の姿」もイメージして進路を考える必要があると思います。ちなみにある調査によると、高校生が就きたい職業ランキングは下の通りです。

1位 教師 2位 公務員 3位 看護師 4位 建築士・建築関係 5位 医師・歯科医・獣医
6位 技術者・研究者 7位 保育士・幼稚園教諭 8位 薬剤師 9位 製造業 10位 放射線技師・
臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ・エンジニア・プログラマー・IT関連

(一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019年」より)

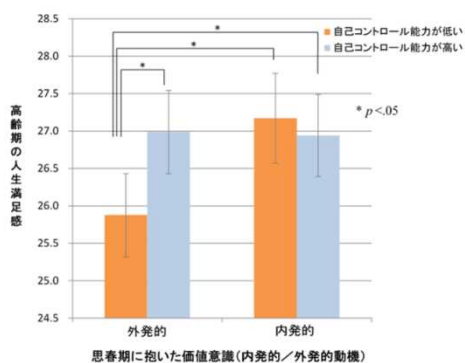
自分が就きたい職業に就くために学ぶことはとても大事な事ですが、これからの社会を考えると現実的には「就きたい職業」と「社会から求められている職業」には差があるのも現実です。普段から、新聞やニュースなどを見て、今の社会情勢やこれからの時代に必要なことなどについて知識を深め、視野を広げましょう。そして“自分のやりたいこと、興味のあること”を見つけると同時に“社会にどう貢献できるか”という気持ちも持って、自分に適した進路選択や生き方を考えてみてください。

(1組副担任 馬場)

満足な人生を送るために

幸せな人生を送りたいと思う人は多いだろう。それでは幸せな人生を送るために、今君たちはどんなことを考えなければならないか、1つのヒントが示された。

"Interaction of adolescent aspirations and self-control on wellbeing in old age: Evidence from a six-decade longitudinal UK birth cohort" (Yamasaki et al, The Journal of Positive Psychology, 2020) という論文によると、思春期の時点で抱いていた**興味や好奇心を大切にしたい**という価値意識（**内発的動機**）が強い人の方が、**金銭や安定した地位を大切にしたい**という価値意識（**外発的動機**）をもつ人より、高齢期における幸福感が高まるという。特に、**自己コントロール力**が強い人が**内発的動機**をもった場合と、**自己コントロール力が弱い人が外発的動機**をもった場合において顕著な差が見られた（グラフ1）。なお、ここでの**自己コントロール力**とは、若い頃に出会う様々な欲求や誘惑に負けずに、自分をコントロールする力のことである。



グラフ1：<https://research-er.jp/articles/view/93022>

より引用

この論文は、東京都医学総合研究所とロンドン大学の研究者らが共同研究を行い、

第2次世界大戦直後に英国全土で開始され、60年以上にわたって継続して行われた追跡調査のデータを分析した結果をまとめたものである。

高齢期の幸福感が高いと健康が維持されるという報告はあったものの、なぜ幸福感が高まるのかということが明らかではなかったようだ。一方で、自己コントロール力が高いかどうかは、経済的な成功を左右することが分かっているが、**経済的な成功は人生を振り返ったときの満足度とは関係しない**こともすでに明らかになっている。

この論文を読むと、就職や資格などの外発的要因により進路選択する人より、興味のある学問を学びたい、研究したいという内発的要因により進路選択をした人の方が満足度の高い人生を送れるように感じる。

また、高校生活においても、自己コントロール力を高め、様々な欲求や誘惑に対して我慢することや、今は何をすべきときであるか理解して、行動することが必要である。

みなさんも、もう1度進路選択や学業、部活動への取り組みを見直してみてもいいのだろうか。

下のQRコードは論文の全文が読めるサイトである。英語で読み上げる機能もあるので、興味のある人はアクセスしてみよう。



『衝撃的なニュース』と今後の世の中とあなた

3年7組 担任 牧之瀬義広（地歴・公民科）

ホンダが2021年シーズン一杯でのF1からの撤退を発表した。そもそもF1を知らない人からすれば、「何の話？」といったところだろうが、本田宗一郎の熱烈な信者であり、エンジンメーカー・ホンダのファンである私にとっては、このニュースはショックであり、残念でならなかった。今までの愛車の多くはホンダ車であったし、レッドブルもたくさん飲んだ。応援していたのに…。「F1はホンダのDNA」じゃなかったのか…。

恨み言を言っているのかもしれないし、共感してくれる人も少ないと思うので話を進める。F1撤退表明のスピーチで、ホンダの八郷社長は撤退の理由を説明したが、その中で印象的だったのが、『自動車業界の100年に一度の大転換期』という言葉であった。ゴットリーブ・ダイムラー、カール・ベンツのガソリンエンジン自動車の発明から100年以上経ち、技術革新も進んで、今は電気自動車や水素自動車の時代を迎えようとしている。そのような流れの中で、ホンダはハイブリッドとはいえガソリンエンジンを用いるF1に見切りをつけ、「2050年カーボンニュートラルの実現」をめざすという。一方で、少し前には、アメリカのカリフォルニア州が今後15年で内燃機関エンジン車（ガソリン車）の新車販売をなくすという発表を行ったという報道もあった。まさに自動車業界にとっては『100年に一度の大転換期』なのだろう。この流れは強力で、流れに乗り損なえば、1980年代以降のアメリカのBIG3（クライスラー、GM、フォード）の没落のように、日本経済の屋台骨である自動車産業も没落してしまうかもしれない。F1撤退の本音は他のところにもあるのだろうが、このような状況にホンダが危機感をもっていることに対しては、私も評価をしたい。

このような私的な趣味の話をして、この文章を読む中央高校生に私が何を伝えたかったのか。それは、この世の中は、一大企業が自分たちのアイデンティティの一部を捨てる決断をするほどの「何が起ころかわからない」世の中であり、そこで生きる我々にも、その世の中に対応できる能力が求められているのだということである。今、進路について悩んでいた、方向性を決めていても不安を抱えていたりする生徒は多いと思う。しかし、今の時点で一定の答えを出していたとしても、それが自分自身の人生を最終的に決定づける完璧・完全な答えではないし、「この道を進めば100%安全」などという道もこの世には存在しない。このようなことをいうと、「お先真っ暗だ」と思うかもしれない。しかし、不安を抱えながらも、しっかりと時代の流れを見極め、時代が求める能力を身につけるために必要な努力を続け、進んでいくしかないのだ。「大学に進学すれば、人生バラ色」ということはなく、そこで「何を成す」かが大事なのだと強く思う。

あるプロレスラーが言った、「迷わず行けよ、行けばわかるさ」。この言葉は、本校校是の「積極敢為 自ら運命を開拓せよ」にも通じる言葉である。悩んでいても、苦しくても一歩を踏み出すことが大事だ。中央高校生には、「時代の流れを読み、時代に求められる、時代の新しい流れを生み出す人材」になってもらいたいと切に願う。